

# 感覚過敏とその関連行動の出現過程と動作法による軽減過程

今野 義孝  
(文教大学人間科学部)

KEY WORDS: 感覚過敏と関連行動、出現過程、動作法による軽減過程

## 目的

感覚過敏は、自閉症スペクトラム (ASD) 児の特徴として古くから指摘されている (Ornitz, 1971; 小林, 1976) が、DSM-5 (APA, 2013) が診断基準に加えたことによって改めて注目されている。今野・小野里・吉川 (2016) や今野 (2016) は、ASD 児の感覚過敏について検討し、次の点を指摘した。①覚醒水準の調節の不全や慢性的な不安・緊張は、刺激入力のコントロールを困難にし、感覚過敏とその関連行動を引き起こす、②感覚過敏は、「単独感覚ドメイン優勢タイプ」、「複数感覚ドメイン並列タイプ」、「触覚ドメイン優勢タイプ」に大別される、③感覚過敏は、条件づけや回避学習のメカニズムによって、ある感覚ドメインから他の感覚ドメインに波及する、④こだわり行動や常同行動、自己刺激的行動などは、感覚過敏に対する対処方略や防衛手段として形成される、⑤Dunn (1999) が提唱した「低登録」、「感覚過敏」、「感覚探求」、「感覚回避」という感覚処理のタイプは、発達経過の中で変化する、⑥心身の安定を図る動作法のリラクゼーションは、感覚過敏とその関連行動の軽減をもたらす。本研究では、「複数感覚ドメイン並列タイプ」の一事例において、上記の点に関してより詳細に検討することを目的とした。

## 方法

### 1. 研究協力児童

本研究の協力児童は、小学校3年生の男児で、乳児期から触覚過敏と聴覚過敏、それに視覚過敏を併せ持っていた。本研究の発表にに関しては、研究開始時と終了時に保護者の同意を得た。

### 2. データの整理方法

感覚過敏とその関連行動の出現過程に関しては、生育史を遡って時系列的に整理した。動作法にともなう感覚過敏の変化とその関連行動の軽減過程を時系列的に整理した。動作法による支援は約1年間にわたり、ほぼ月に2回の割合で行った。

## 結果

### 1. 感覚過敏とその関連行動の出現過程

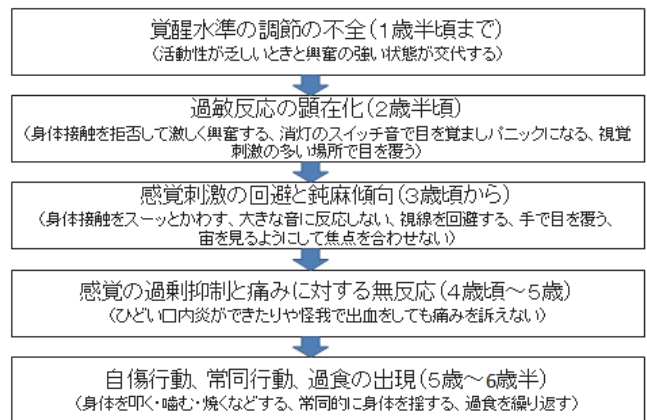
本児は、乳児期から触覚、聴覚、視覚ドメインの過敏が強く、他者からの身体接触によって強い緊張と情動興奮を起こしたり、消灯のスイッチの音で突然目をさましてパニックになったりした。視線は合わず、2歳頃からは視覚刺激の多い場所では目を覆うようになった。3歳頃からは、一般的に活動が乏しくなり、他者の身体接触をスーッとかわすようにして避けたり、視線を回避したり、手で目を覆ったりすることが増えた。また、大きな音に対して反応しなくなった。4歳頃には、感覚の過剰抑制と思われる感覚鈍麻の状態が顕著になり、口内炎が悪化したり足を怪我したりしても痛みを訴えなくなった。5歳頃からは、感覚遮断状況からくる内的な不安定感に対する代償行動と推測される自傷行動が現れるようになり、常同行動や過食も激しくなった。

### (2) 動作法による感覚過敏とその関連行動の軽減過程

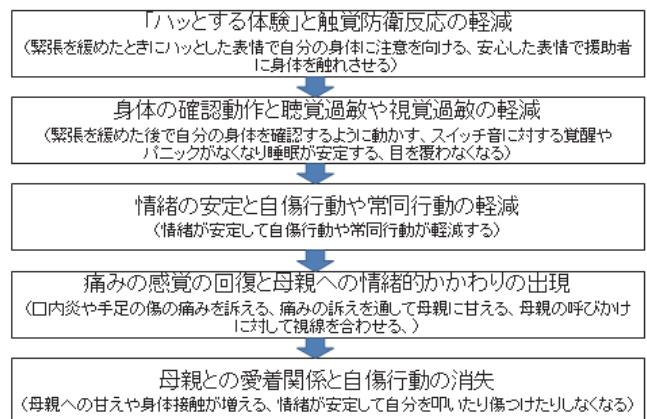
本児は、最初の段階で動作法の援助に抵抗を示した。しかし、動作法のリラクゼーションによって身体の心地よさを体験した後で、ハッとするような表情で自分の身体に注意を向ける「ハッとする体験」や、腕や肩の緊張を緩めた後で不思議そうに自分の腕や肩を動かして自分の身体感覚を確認するような行動が現れた。それに伴って、安心したような表情で周囲の様子を見回したり、他者の顔を見

たりするようになった。その頃から、睡眠中のスイッチ音による覚醒反応やパニック反応がなくなり、睡眠が安定した。また、目を覆う行動がなくなり、呼びかけに対して視線を合わせるようになった。一般的に情緒が安定し、常同行動や過食が著しく軽減した。その後、動作法による心地よさの体験が深まるにつれて、痛みが回復した。そして、身体の痛みを訴えて通して母親との情緒的なコミュニケーションが始まった。

### 感覚過敏とその関連行動の出現経過



### 感覚過敏とその関連行動の軽減経過



### 【まとめと考察】

本事例における感覚過敏の出現過程は、「感覚過敏」→「常同行動やこだわりによる感覚回避」→「感覚の過剰抑制による低登録」→「感覚遮断による内的な不安定感の増大と自己の不確実感の増大」→「自傷や自己刺激行動による自己確認のための感覚探求」へと変化した。このことから、Dunnの提唱した感覚処理のタイプは固定的なものではなく、感覚過敏への対処方略の変化にともなう変化すると考えられる。動作法の効果に関しては、心地よい心身の体験と心身の安心・安全の体験に加えて、自己同一性の感覚を支える身体への気づき (ハッとする体験) が、感覚過敏に対する主体的な対処を可能にすることが示唆された。

(KONNO YOSHITAKA)